

氏名	一浦 嘉代子
学位の種類	修士 (看護学)
学位記番号	修士 第 175 号
学位授与年月日	平成26年3月10日
学位論文題目	外来通院中脳卒中患者の血圧管理状況に関連する生活習慣要因の検討

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	180	(ふりがな) 氏 名	いちうら かよこ 一浦 嘉代子
修士論文題目	外来通院中脳卒中患者の血圧管理状況に関連する生活習慣要因の検討		
<p>【研究目的】</p> <p>1. 外来通院中脳卒中患者の血圧管理状況と生活習慣要因の実態を全体および降圧薬服用者の有無別に層化して明らかにする。</p> <p>2. 外来通院中脳卒中患者の血圧管理状況と生活習慣要因である食塩摂取、肥満、運動、飲酒との関連を全体および降圧薬服用者の有無別に層化して検討する。</p> <p>【方法】</p> <p>対象者を脳卒中診療実施医療機関の神経内科・脳神経外科外来へ脳卒中中通院中の患者とした。調査内容は、測定項目として5分間安静後の血圧2回測定、身長、体重測定、随時尿による尿中 Na、K、Cre 値の測定、自記式質問紙調査票による生活状況の調査、診療録から基本属性や服薬状況等の情報収集とした。</p> <p>【結果】</p> <p>2013年2月4日から2013年10月31日まで調査を実施した。調査の趣旨を理解し同意が得られた患者は138名（応諾率91.4%）であり、内、110名を分析対象とした。脳卒中発症後の血圧管理目標値である収縮期血圧値140mmHg未満かつ拡張期血圧90mmHg未満に該当しないものを、血圧管理が不十分と考え、血圧値140/90mmHg未満と血圧値140/90mmHg以上の2群に群分けし、各生活習慣要因である食塩摂取（尿中Na/K比）、肥満の有無、運動習慣の有無、飲酒習慣の有無（エタノール換算で0g/週、1-139g/週、140g以上/週の3カテゴリに分類）の関連を検討した。血圧値140/90mmHg以上の血圧管理不十分な者の割合は、全体で27名（24.5%）、降圧薬非服用者では9名（29.0%）降圧薬服用者では18名（22.8%）であった。各生活習慣要因による血圧値140/90mmHg以上のオッズ比と95%信頼区間をロジスティック回帰分析似て算出した。各生活習慣要因による血圧値140/90mmHg以上のオッズ比および95%信頼区間は、尿中Na/K比1.0上昇毎に0.99（0.76-1.29）、BMI25kg/m²以上は1.17（0.45-3.01）、運動習慣無しは1.41（0.56-3.41）、飲酒習慣有りは2.58（1.05-6.32）であった。飲酒量については、エタノール摂取量1-139g/週で2.05（0.74-5.70）、エタノール摂取量140g以上/週では4.36（1.11-17.13）とエタノール摂取量140g以上/週で有意な上昇を認めた（参照水準：エタノール摂取量0g/週）。降圧薬服用の有無にて同様の解析を行ったところ、全体での解析と同様にエタノール摂取140g以上/週と血圧管理状況に関連が認められた。食塩摂取、肥満、運動習慣での関連は認められなかった。</p> <p>【考察】</p> <p>血圧管理状況とアルコールに関連が認められた理由としては、軽症高血圧の患者での血圧と節酒効果の関連では、節酒後1～2週間という比較的短期間で降圧効果が得られると報告されており、本研究の対象である外来通院中の脳卒中患者でも同様の摂取による降圧効果が得られ、横断研究で生じることが懸念される因果の逆転を避けられたためと推測する。</p> <p>【総括】</p> <p>外来脳卒中患者の血圧管理状況と各生活習慣要因である食塩摂取、肥満、運動、飲酒の関連を検討した結果、1週間に140g以上（日本酒換算で、一日あたり2合以上）飲酒する者、つまり多量飲酒である脳卒中患者は非飲酒脳卒中患者に比して血圧値140/90mmHg以上である頻度が約6倍であることが示された。</p>			
<p>（備考） 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。（1200字程度）</p>			